

# 中学生広島平和教育研修



富士見中学校 2年  
小池 美月

## 広島平和研修で 学んだこと

私は広島でとてもたくさん  
のことを学びました。

一つ目は、原爆被爆者8・6証言のつどいで聞いたお話です。原子爆弾は「ピカドン」とも言われますが、お話では「青白い何とも言えない気持ち悪い光が『ピカ』ではなく『ポポツ』と光り、町の中心部からは真つ黒なキノコ雲が上へ横へと広がった。」と、お話をしてくださいました。さらに、「しばらくすると、たれ下がった皮ふが当たらないように手を上げながら服もポロポロで人が逃げてきた。」とも言っていました。私は想像もつきませんでした。でも、私は平和記念資料館へ行って、当時の様子を再現した模型と写真を見たことで、今では想像ができます。一九四五年八月六日午前八時十五分、あの日

だれも予想していなかった出来事が起こりました。爆心地の温度は一気に四千度まで達しました。その後お話をしてくれた方は、いとこを探したそうです。でも、どこへ行っても、かみの毛もない、服もない、真つ黒にこげた人達でみんながみんな同じに見えたと言っていました。でも、そんな状態の中、生きようと、助かりたいと必死で「水…」と言っている人が町にはたくさんいたそうです。できることなら、みんなを助けたい。でも、医者も被爆していて治療ができない。体中についたうじ虫を毎日毎日ピンセットでとっていく。私だったらたえられないと思います。でも、やらなければいけないのだと思います。

二つ目は、今現在のことです。被爆者健康手帳の所持者は約十七万四千八十人です。でも、その手帳がほしくて、他の人々による差別を受けたくないという気持ちから持っていない人がまだまだ大勢いるそうです。どうして、戦争も終わって平和な世の中で暮らしていくべき方が、差別を気にしながら生きていかなければならないのでしょうか。罪もないのに突然投下された原子爆弾によって被爆し、結婚はできない、近よるな、産まれた子どもにも影響が出るなどといった差別を受けなければいけないのでしょうか。今を大切に笑顔で、他の人とも何にも変わらない人生を生きるべきです。

